

学校名： 藤沢市立亀井野小学校

氏名： 藤原 悟

### 1. 今回の研修における目的やねらい

- ①学校生活で現地の学校、生活を見て、日本との違い、同じところがあるかを学ぶこと。
  - ②タンザニアで活躍する日本人を知ること。
- この二つから、日本の子どもたちの、我々が現状をよりよくするヒントを探す。

### 2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

タンザニア滞在中は、五感を駆使し、ありとあらゆることをとにかく吸収しようと心がけていました。目的やねらいの②については、多くの素晴らしい方々と出会うことができ、大切な経験となりました。目的やねらいの①については、大変多くの現場を拝見することができましたが、これはあくまで、個人的な経験です。これらの経験を残りの研修、そして教員生活、また人生の中で子どもはもちろん、まわりの人たちにどのように伝えていくか。伝え方によって達成度は大きく変わると思っています。

### 3. タンザニアから学んだこと

タンザニア共和国滞在中、多くのことを経験させて頂きましたが、「人間にとっての『豊かさ』や『幸せ』とは何かをさらに考えていこう。」と、さらに思うようになりました。日本にはない、否、忘れかけてしまったものがタンザニアにはいくつもあったように思います。これからもアフリカや世界にアンテナを広げ、学び、いかにして子どもに、周りの人にわかりやすく、自分の言葉で伝えていくかを考えていきたいと思えます。それが、私がタンザニアから、学んだことと思えます。

### 4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

JICA がタンザニアで取り組まれている「O&OD プロジェクト」は、「自分たちのよいところは何か、自分たちでなにができるのかを考える」ということは関して、私が常に日頃取り組む学級経営に通じるものがあるように感じました。中でも、「話し合う場自体が教育」という村の方の話が印象的です。今回の研修をきっかけにして、さらに子ども同士、クラス内での話し合う場面を設けようと考えています。研究授業だけでなく、ありとあらゆる学校生活の場面で、タンザニアで経験したことを伝え、その中で、自分たちとタンザニアの人が何も変わらないこと、同じ時代を生きる仲間であることを一人でも多くの人に感じてもらえたらと思えます。

### 5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

よかったことは、なにより、タンザニア滞在中にお会いした方々の一所懸命に生きる姿に触れられたことです。また、タンザニア、国際協力のお話をいろんな方から伺い、今まで見てきたこと、

聞いたことがつながることがたびたびあり、理解が深まっていきました。

よくする提案としては、交流に際して、現地の子どもたちが知っている、またよく歌う歌、遊びをリサーチした方がよいように思いました。予想以上に、タンザニアには豊かな自然、表情豊かな人たち、興味深いものであふれていました。写真や動画をもっとよく学んでおけばよかったとも思っています。撮影に興味のある方は、撮り方についても事前に学ばれることをおすすめします。

## 6. 海外研修での役割（日直や各担当）を振り返っての感想・提案など

私は記録係で主にデジタルカメラで撮影していました。タンザニア滞在当初、メンバー全員が個人的にデジタルカメラを出して撮影していましたが、集合写真などは、撮影される方への迷惑、また時間短縮の意味も込め、代表者二人くらいにしました。また、帰国後、子どもに見せられるように、滞在途中から、先生同士、子どもに関わる姿など撮影するようにはしていきました。

交流ごとに担当者にお任せする形になってしまったように感じています。もう少し、自分から現地の学校、子どもや職員の様子（英語が話せるのか、流行っていること、日本に対して聞きたいことなど）を伺っておけばよかったと思います。

## 7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

今回の研修は JICA の足立さんをはじめ、現地で奮闘される JICA 職員、協力隊の先生方のおかげであったと感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。他の地域にも魅力的なところはたくさんあったとは思いますが、日程、内容、移動距離、メンバーの体力など、考え抜いて頂いたことにも感謝です。

今回の研修の時期、マラリアの危険性は高かったように思うので、もし次回以降アフリカ滞在の可能性があるようなら、予防注射、薬など（内容は異なるかもしれないが）はみんな一斉に行う形でもよいのではないかと思います。

## 8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

### ・事前準備

その国のことはもちろん、滞在先にあわせ、テーマを決めて、資料を読んで、相手の方を想定して、質問をいくつか考えておくことをお勧めします。

### ・ふりかえり

短期間で多くの現場を視察し、多くの方々と出会います。また、日本では見ることの出来ない素晴らしい体験の連続です。そのような毎日を自分の中でしっかりと消化することは難しかったです。日々、データ化できればよいですが、体力的にも難しいと思います。お会いしたとき、聴いたときのメモが大切になると思います。

### ・健康（体調管理）、治安について

JICA からの事前レクチャーのおかげで、今回は大事には至りませんでした。写真を撮る場所やタイミング、集団行動を守ること、様々な場面であると思うので気をつけて下さい。一緒に行くメンバーは日本の方々に、しかも、同じ教員の方々ということもあり、安心しがちですが、その安心してしまいがちが危険なのだと思います。事前レクチャーをしっかりと守るよう気をつけて下さい。

## 9. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
8月11日(日) -12日(月)	日本からタンザニアまでの 移動中および現地到着	成田空港に到着し、手続きを済ませると、夜だったため、食べるところが閉まってしまう、その後機内食まで時間がありました。夜の便でしたら、早めの夕飯を軽く取ることをお勧めします。
8月12日(月)	JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング	<p>健康管理、安全対策について話を伺いました。身が引き締まるとともに、緊張して少しお腹が痛くなりました。</p> <p>大西所長より、「タンザニアの印象は？」と聞かれ、空港からホテル、事務所に向う道中、主に多くの男性が座っていたり、話している姿を見かけたことが気になり、事前から気になっていた都心部の失業率に絡めて話しました。</p> <p>大西所長からは、農作物の加工、製造業の育成に取り組み、その市場をつくり、若い人の失業率をなくし、職業自給率も上げ、タンザニア国内にさらに活気が生まれるという、よいスパイラルを生み出すよう取り組みたい、という話を伺いました。</p>
8月12日(月)	本日の振り返り(夕食会)	<p>屋上レストランにて、JICA 事務所の方々と懇談会。</p> <p>大西所長が、松下幸之助氏の「お客さんが欲しいものではなく、役に立つものをつくりなさい。」という言葉を紹介。世界各国で仕事をされていく中で、心がけている言葉ということもあり、印象に残りました。</p>
8月13日(火)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	<p>研修日程の確認、タンザニアの概要、ボランティア事情、O&amp;ODプロジェクトについて話を伺いました。</p> <p>木全さんが、現地の村と藤沢市の面積がほぼ同じことを例に「藤沢市ほどの面積に担当者一人」という話をされ、O&amp;ODプロジェクトのアフリカ、タンザニア内で展開するスケールの大きさと大変さが伝わってくるとともに、実際の様子はどのようなものか、訪問するのが楽しみになってきました。</p>

8月13日(火)	モロゴロへ移動	<p>ダルエスサラームから近いからか、予想よりも割と道路が整備されているのが印象的でした。道中、町やガソリンスタンドは20分おきくらいに間隔をあけて現れ、道路脇にはずっと電線もありました。とはいえ、道はでこぼこ、周りには何もなく、様々な種類の木が点々と立ち、草原が広がっていました。夕陽の輝きは鮮烈で今も忘れられぬほど、きれいでした。</p>
8月13日(火)	本日の振り返り	<p>明日の交流内容を確認しました。いよいよ明日から、タンザニアの村に行けるかと思うと希望に胸が膨らみました。</p>
8月14日(水)	<p>Maseyu 村 Mazizi 地区 Maseyu 村 Mjini 地区 サイト視察</p>	<p>JICA の柿崎専門家、田中専門家、二階さんと合流建設中の幼稚園、診療所、レンガ銀行、女性グループの活動様子を見学、懇談。</p> <p>日本の様子を話したところ、内容を懸命にメモする村の方々の姿が印象的でした。自殺をする人が日本はなぜ多いのかなど、質問も多数され、日本への関心の高さを感じました。</p> <p>また、村の中には様々な課題がある中で、学校建設を選択された村の人たちの判断に驚くとともに、教育政策を重視された、ニエレレ初代大統領の影響もあるのかと考えました。</p>
8月14日(水)	専門家との懇談会	<p>二人の専門家との懇談は忘れられない印象的なものとなりました。</p> <p>柿崎さんは地方行政支援の専門家で、この道一筋30年。日本から遠く離れた地で地道に取り組まれ、少しずつ粘り強く現地の方と語り合い、心を変えていく時間のかかる活動。そうした活動が、民主党時代のいわゆる「仕切り」の対象になったときの話を柿崎さんは悔しそうに話されていました。</p> <p>田中専門家は自分と年も近く、転職のタイミングも似ていたので、さらに心を揺さぶられました。「自分が取り組む仕事によって、地域社会を『変える』ことがよいことなのか。」常に葛藤しながら仕事をしているとの話に感動しました。</p> <p>また、現地の人たちに「選択肢を提供し続ける。選らんだものしか残らない。だから地道に取り組むしかない。」とも話していました。O&amp;OD をタンザニアで広めるには少なくとも20年はかかるプロ</p>

		<p>ジェクトと想定するとともに、3年を1つのリミットにして、何らかの成果を残さないといけない現実。相手のことを想い、厳しい現実と闘い、奮闘されているこの二人のことは、日本の人たちに必ず伝えなければと決意しました。</p>
8月14日(水)	本日の振り返り	<p>マセユ村で感じたことをメンバーそれぞれ話しあい、明日のインタビュー内容について打合せをしました。村の人たちと出会えたこと、現地で葛藤する日本人と懇談できたことなど、印象に残る一日でした。</p>
8月15日(木)	Maseyu 村 Mjini 地区 関係者インタビュー	<p>研修メンバーから村の様子などについていくつか質問したが、ほとんど村長さんが答えたため、他の人たちから話をあまり伺えなかったのが残念でした。農業は自給自足がメインで、商品作物もつくるが全体の3割で、売ることにもそれほど力を入れていない様子でした。その後もいくつか市場を見学したが、現地の人たちが、品物を買っている姿を見かけることはありませんでした。</p>
8月15日(木)	小学校視察、村人との交流	<p>机や教科書などの教育・学習環境の厳しさを目の当たりにしました。幼稚園においては青空教室状態。そうした中でも、子どもたちの学習意欲を強く感じました。初めての交流を終え、ほっとしました。</p>
8月15日(木)	市内視察 (モロゴロ)	<p>教科書ブックショップ、カンガショップ、スーパーマーケット、市場など見学。小学校レベルの教科書を数冊とリコーダー、タンザニア代表のサッカーユニフォームなど購入。リコーダーは後ろの穴が上でなく、真ん中にあり、音も日本のものとは異なっていました。</p>
8月15日(木)	隊員との懇談会	<p>今回2回目の協力隊をされている赤堀隊員との話は、興味深いものばかりでした。仕事の合間を縫って仲間の方々と教材研究をされているとの話を伺いました。日本だけでなく、タンザニア国内の教育現場にも様々な課題があるとの話も考えさせられました。</p>
8月15日(木)	本日の振り返り	<p>他のグループで話した内容など意見交換。参加者が当日までわからなかったこともあり、話し合</p>

		いのスタイルについてはどのようにしていったらよかったか難しかったです。
8月16日(金)	ムグラシ中等学校 赤堀隊員	赤堀隊員の算数の授業参観。言葉は、現地は英語を使用するとの話でしたが、実際はスワヒリ語メインでした。子どもたちとスワヒリ語で何と表したらよいか語らいながら子どもたちを授業に参加させる赤堀さんのスタイルに関心しました。その後は、交流会。フリータイムでは、自分は生徒たちとサッカーをする。タンザニアはアフリカ大陸の中ではサッカーは上手でないと聞いていましたが、生徒たちはとてもボール扱いが上手でした。ボールはゴムまりのようなもので、裸足で蹴っていました。スポーツや音楽は、言葉が通じなくても、心が通い合うことが確認でき、貴重な体験ができました。
8月16日(金)	ミクミ国立公園通過 モロゴロへ移動	キリン、サル、インパラなどの野生の動物を目の当たりにしました。動物の体の色は思っていたよりも、分かりにくく、自分の体を保護するためか、アフリカの大地、自然と同じような色をしていました。
8月16日(金)	本日の振り返り	ムグラシ中等学校での交流の反省会。初めての交流ということもあり授業内容や時間配分など次の交流へいかせるよう話しあいました。家庭科など技能教科がタンザニアでは学校で学ばず、家で学んでいる話を聞き、日本では学校で、学び、習うことが増えているように感じました。
8月17日(土)	バガモヨへ移動	移動中、JICA の二階さんと小学校教員の山口さんと、大企業のアフリカ進出、日中の国際協力比較などについて話し合いました。二階さんはまだ社会人一年目ですが、博識で、しかも話がやさしい言葉で分かりやすく、楽しく、長時間のバス移動もあっという間に時間が過ぎました。
8月17日(土)	市内視察 (バガモヨ)	<p>奴隷博物館を見学しました。奴隷貿易があることは知っていましたが、改めて、人を商品とする発想に驚きました。しかも、一緒に象牙も商品として取引があったようです。</p> <p>港も訪問。今まで、見渡す限り陸続きでしたが、ここでは、どこまでも海原が続き、絶景でした。</p>

		<p>魚料理はだいたいどこもカリカリにあげていましたが、現地の船は木製で冷蔵施設の不足、流通網の未発達から、衛生上、そうせざるを得ないことがわかりました。</p> <p>また、音楽グループの歌&amp;踊り&amp;演奏鑑賞。アポイントなしで、突然訪れたにもかかわらず、我々に歌と踊りを披露して頂き、感激。ステージに行くまで村の生活も見ることが出来ました。火をおこし、ウガリをつくる主婦や山型の砂場でばく転をして遊ぶ子どもたち。ゲームや家電製品などももちろんないが、楽しそうに過ごしている姿が印象的でした。</p>
8月17日(土)	本日の振り返り	<p>市内視察で感じたことなど話しあい。夕飯は谷口隊員のそばで懇談。谷口さんは、環境教育の推進に取り組んでいるようだが、現地学校での授業はこれからとのこと。</p>
8月18日(日)	ダルエスサラームに移動	<p>人や広告の数が増え、車窓から見える景色が都会に来たと感じました。残りの時間がわずかなのを感じ、同時に寂しさを感じました。</p>
8月18日(日)	教材等購入	<p>ティンガティンガ村訪問。色遣いが、素晴らしかったです。作品、品数豊富。売り方を工夫したら、さらに発展しそうな予感がしました。</p>
8月18日(日)	本日の振り返り	<p>キパンランガンダ中等学校での交流準備や、ティンガティンガでの買い物についても話しました。部屋に戻り、やっと日本の子どもたちへ、約70枚、はがきを書き終えたのもこの日でした。</p>
8月19日(月)	キパンランガンダ中等学校 米澤隊員	<p>米澤隊員の授業を参観。内容は物理で表面張力。とても高度な内容と感じたが、子どもたちが、懸命にノートをとっている姿が印象的でした。生徒と話そうとしましたが、英語通じず断念。次に教員に話しかけてみると、三人と話したが、どなたもキャリア志向が強かったです。結婚についての話題も話せました。校長先生の表情や瞳が優しかったのが印象的。校長先生のスピーチ伺い、米澤隊員への信頼感がひしひしと伝わってきました。</p>
8月19日(月)	教材等購入	<p>大型スーパーマーケットに行く。店内を回って見たが、店員さんに伺ってもタンザニア産のもの</p>

		<p>が少なく、ほとんどが輸入品であることがわかりました。</p>
8月19日(月)	本日の振り返り	<p>研修メンバー全員から授業の方向性について話しあい。時間は限られていましたが、話している内容から、様々なヒントを頂きました。</p> <p>夜の懇談会では、同じテーブルに友成さんがいらっしゃる食べることも忘れるくらい種々語りました。中でも、前 JICA 理事長の緒方さんの就任前後の話など大変貴重でした。</p>
8月20日(火)	JICA タンザニア事務所 報告会	<p>子どもや身の回りの人たちに ODA、JICA の活動をわかりやすく翻訳し、伝えることが出来るか。私たちに対し、そこへの期待を強く感じました。しかし、内向きなご時世で、活動自体ほとんど知られていないし、特に O&amp;OD のような活動の効果が目に見えにくいものを、どのように伝えるか大きな宿題を頂きました。</p>
8月20日(火)	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	<p>約70カ国の訪問歴のある大使の含蓄溢れるコメントが印象的でした。タンザニア共和国の社会主義の影響、グローバル化の中での発展について、自分は考えさせられました。</p>
8月20日(火) -21日(水)	タンザニアから日本までの 移動中および日本到着	<p>友成さん、足立さん、フィリップさん、マイケルさんとの別れはホントにさみしかったです。これからがスタートと決め、何かしらの行動を起こそうと決意しました。</p>